

【一徳園】 【一徳堂】 について

紙屋小学校初代校長 南崎兼左衛門（みなみざき けんざえもん）が当時、四分五列（しぶんごれつ：ばらばらになっていること）の状態だった紙屋村民の人心を立て直すために、「紙屋の教育は理想郷づくりにある。」と位置づけ、今で言うところの“村おこし”、“人づくり”のために、明治44年に【一徳園】、大正9年に【一徳堂】を完成させた。

【一徳園】の造成は、村民が一つの目標に向かい、心を一つにして協力する、いわば村民一体の精神的・肉体的な共同作業であり、村民の善意の結晶であった。その心は今でも受け継がれ、PTA奉仕作業の時には地域の方々がボランティアとして【一徳園】の整備を行っている。

【一徳堂】の建設においては、評論家の徳富蘇峰、海軍元帥の東郷平八郎、逓信大臣、外務大臣を歴任した政治家の後藤新平、海軍軍医総監の高木兼寛など約40名の名誉賛助者直接的・間接的に大きな支援を受けている。

左上の【一徳堂】に掲げられていた看板の文字は、諸県郡穆佐郷（高岡町穆佐、現・宮崎県宮崎市）出身で「ビタミンの父」と呼ばれる高木兼寛の筆によるものである。